

第2回 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 議事録

日 時	令和3年5月26日（水）18:00～20:00
場 所	武蔵野市役所西棟4階412会議室
出席者	【委 員】◎松尾哲矢委員、○石黒えみ委員、秋本清委員、櫻井昭委員、鈴木健太郎委員、河合雅彦委員、藤田勝敏委員、鎚邦宏委員、多田てい子委員、前川洋司委員、新野雅史委員、古賀祐輝委員、田中博徳委員、樋爪泰平委員 ※◎委員長、○副委員長 【事務局】武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課 【事業者】株式会社創建（計画策定支援事業者）
欠席者	0名
傍聴者	2名
次 第	1. 開会 2. 議事 (1) 策定委員会会議の傍聴について (2) 本計画におけるスポーツの定義 (3) 武蔵野市のスポーツを取り巻く現状と課題（するスポーツ、みるスポーツ） (4) 意見交換
資 料	資料1 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会傍聴要領案 資料2 スポーツを取り巻く社会情勢の変化や国・東京都の政策動向 資料3 武蔵野市におけるスポーツ資源 資料4 武蔵野市のスポーツを取り巻く現状と課題 資料5 武蔵野市立体育施設類型別施設整備計画

1. 開会

事務局より、開会の挨拶と配付資料の確認を行った。

2. 議事

(1) 策定委員会会議の傍聴について

事務局より、資料1に基づいて説明を行った。

事務局 内容としていかがか。

委員 (全員承認)

事務局 ただいま承認された傍聴要領に基づき、傍聴者が2名いるため案内する。

(2) 本計画におけるスポーツの定義

事務局より、本計画におけるスポーツの定義について説明を行った。

委員長 計画を策定するにあたって、どのような活動をスポーツとするのか、ということ議論することはとても重要である。本日は結論づけるところまではいかないが、考え方の方向性について意見交換したいと考えている。スポーツの定義に対する考え方についてコメントをいただけないか。

副委員長 スポーツの定義を考えるにあたっては、人によって、状況に応じて実に様々な考え方がある。武蔵野市のスポーツの定義としては、競技スポーツから階段昇降まで、戦略的に幅広く捉えることが重要と考える。スポーツと他の領域とが融合することを見据えると、幅広く捉えていくと良いのではないか。ただし、活動者本人がスポーツだという認識を持っていることが重要である。

委員 スポーツと聞くと競技スポーツが頭に浮かんでしまう。しかし、競技スポーツ以外にもスポーツごみ拾いなどの活動もスポーツの意味合いが含まれている。当事者が楽しんで行う身体活動であればスポーツで良いのではないかと考えている。本来、スポーツは楽しいものとするが、日本では厳しいものというイメージがある。楽しいものをスポーツと捉えて良いのではないか。

委員 これまでスポーツは記録を出すもの、競うもので、運動は楽しむものと考えていたが、これまでの委員の方々の意見を踏まえると、スポーツを広義に捉えて良いのではないか。

委員 やって見たらおもしろいスポーツというのはあると考える。そのためには施設の整備や充実が重要である。

委員長 日本体育協会は日本スポーツ協会に名称を変えた。その当時は、とても議論を重ねた。また、sport と sports のどちらにするかも論点になった。競技種目の集まりは后者であるが、日本スポーツ協会は sport とした。スポーツはみんなが楽しむものという意味合いを持たせるために、sport という表記にした。ただし、なんでもスポーツというわけではなく、自分自身が自発的にスポーツをしているという自覚と、楽しいと感じているかどうか、ということがスポーツを定義する上で重要だろう。様々なアンケート調査結果をみると、実施している競技種目内容の上位はウォーキングやトレーニング、階段昇降など、必ずしも競うわけではない。

また、e スポーツをスポーツに含めるのか、という論点もある。ここまで広げるかどうかは意見が分かれるところである。現行計画では「勝敗や記録を競う競技スポーツのみならず、ウォーキングや体操など健康づくりのためのスポーツ、介護予防等のためのトレーニング、自然に親しむ野外活動、子どもどうしや親子での遊びなど身体を動かすこ

となども含めてスポーツとしてとらえます。」となっている。ただ、この内容は目的が先にあつて、そのためにスポーツを実施するという構造になっている。日本スポーツ協会では、スポーツを本気で楽しんだ上で、その効果を感じるという、これまで武蔵野市が示していた考え方と逆の流れを提示している。先にスポーツを楽しむという意味合いを示す方が良いだろう。

委員 祖父、祖母が孫の応援に行く場合、サポートという目的であっても、孫の楽しむ姿を観に行くために徒歩や階段昇降を行うケースがある。とても幅広く捉えることになってしまいが、サポートの行為自体がスポーツとする考え方もあるのではないか。市はインフラが充実しているので、サポートする人の行為も含めるとどうかと考える。

委員長 本日は大きな方向性を決めたいため、協議させていただいた。また、事務局でまとめたものを提示していただき議論を重ねたい。

(3) 武蔵野市のスポーツを取り巻く現状と課題（するスポーツ、みるスポーツ）

事務局より、資料2、資料3に基づいて説明を行った。

副委員長 2点気になったことがある。1点目は新しい生活様式に対応したスポーツの在り方を検討することが重要と考える。このコロナ禍において、想定していた以上に様々なデジタル技術の進展がみられた。今は一時的な措置としてデジタル技術を活用したスポーツの在り方が論じられているが、今後はスポーツの楽しみ方の一つとして定着していけると良いのではないか。2点目は「多様な主体の参画」というのが重要と考える。官民連携の視点で民間スポーツ事業者へのアプローチが重要ではないか。また、国においては、女性の担い手の発掘が課題となっている。このような課題を解決するためには、グラスルーツからボトムアップで課題解決に資する取組を行うことが良いのではないかと考える。トップレベルでは競技団体の役員について女性登用という論点があるが、地域スポーツの場面でも女性のリーダーを増やすという方向性を検討して良いのではないか。

委員 我々は、競技スポーツとしてのラグビー、サッカー、そしてスクール、アカデミーを抱えている。スクールの活動は停止している。部活動を停止している影響である。現場サイドは活動したいが、グラウンド管理者から使用停止を求められている。競技スポーツではサッカーの公式戦は動いている。競技スポーツの公式戦についてはグラウンドの利用が認められている。ただし、利用時間は21時から20時までと短縮している。昨年から感染者を出している。種目によって保健所の判断が異なる。サッカーの場合は濃厚接触者の判定が出づらい。陽性者のみ休めば良い。一方、ラグビーは密集性が高く、濃厚接触者と判定されやすい。そうすると2週間チーム全体が活動中止となってしまう。最善の注意を払っているが、気を付けていても感染してしまう。今は陽性者を出さないように気を付けているところである。

委員長 新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底して活動を維持することが重要だろう。

委員 施設運営者としては、テニスは屋外だが、マスクを着用せずに実施している。スポーツを実施している人としていない人でかなり危機感が異なるかもしれない。新型コロナウイルス感染症に敏感な人に対するケアも必要と考える。

(4) 意見交換

事務局により、資料4に基づいて説明を行った。

■するスポーツ

- 委員 トップアスリートとの出会いが夢や感動を与え、スポーツに親しむきっかけになると思うので力を入れて取り組んでいただきたい。部活動指導員を派遣する取組は行われている。部活動の在り方については、技術を高めるためなのか、人格を形成し、健全育成などにつながるものなのか、このバランスを保った上での指導が教育では求められている。
- 委員 休み時間をみると校庭で遊んでいる子どもがいる。スポーツを好きな子どもに、鬼ごっこを好きな子どもが該当するのか、ということが論点となる。スポーツの定義にかかわるが、ここの考え方を検討することが重要だろう。鬼ごっこを得意ではない子どもはないのではないか。今回の計画ではどのようにしたらいいのか。また、資料4、3ページ目のグラフの赤い部分の鬼ごっこも重視できるようにしていけると良いだろう。
- 委員 5中にラグビーの指導者を派遣している。少子化の影響により一つの学校のみでの団体スポーツが成り立たなくなっている。子どもたちが部活動で取り組みたいと思っても、団体スポーツができないケースが出ている。部活動指導員は準教員という形式となるので、民間から指導者を派遣しようと思うと、拘束時間が長くなり我々の活動ができなくなる。外部指導員だと指導する時だけ派遣するので協力しやすい。いくつかの学校でラグビー部を創るなど、合同チームで大会に出場するなど良いのではないかと。部活動指導員も活動の時だけ派遣するという仕組みになると派遣しやすいのではないかと。
- 委員 スポーツを好きになるためには出会いがカギではないか。障害者スポーツやニュースポーツを紹介し、選択できるようにしていくことが重要だろう。ニュースポーツを通じてスポーツ嫌いな子どもを好きにしていけるような取組を行った経験からすると、出会いの機会を創ることが重要である。
- 委員 高齢者にはいかにお知らせしていくのかということが重要である。今はホームページの作成やデジタルでの発信が多く、なかなか情報が届いていないように思う。元気な高齢者は生活習慣が出来上がっているから、新たにスポーツを継続してもらうにはどのような取組が必要なのかと考えている。住みやすいまちづくりと絡めてスポーツの在り方を考えた方が良く考える。私の健康づくりというテーマで作文を募集してみたり、団体の紹介をホームページで行ったりしていた。このような紹介を充実していけると良いのではないかと。
- 委員 東京都からDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進と言われるが、ペーパーレスになってしまう。障害者全員にスマホを配付できるわけではない。こういう時代ではあるが、ある期間までは紙も残すことが重要と考える。スポーツセンターの利用者が知る理由は口コミである。人と人とのつながりづくり、計画づくりと地道な活動が重要である。スポーツや運動を実施しなかった理由について、「障害者ができると思わない」という回答がみられたが、そもそもできると思っていないのではないかと。例えば、東京都障害者スポーツセンターの場合、「スポーツセンター」という名称のおかげでパラリンピアンが利用する施設と思っていた人もいた。スポーツの定義に関することと思う。また、障害当事者がリーダーとなっていくことも重要である。障害当事者が障害者スポーツ指導員の資格を取得し、指導に従事した方がより良いケースがある。障害者スポーツ指導員の受講者には障害当事者が一定程度いる。障害者に対して、障害者の指導者であれば、見本を見せる時により共感が得られるだろう。
- 委員長 以前、あるスポーツ推進事業でどのようにしたら情報が伝達されやすいかという点に取り組んだことがある。ある保護者の方にインフルエンサーになっていただき、情報の拡散をする方法を採用したが、ママ友の皆さんの口コミによる伝達力は極めて強かった。

ロコミはとても重要な方法と考える。

- 副委員長 スポーツに対する無関心層を取り込むことは非常に難しい課題である。仕事、家事、育児の面で、どちらかと言えばまだ女性の方がスポーツ実施を抑制されてしまう傾向にある。小さい子どもがいるのにスポーツをできている女性の特徴としては、出産前までスポーツを続けていたということがわかっている。学生から社会人になってスポーツを辞めなかった人は出産後も再開していた。また、もう一つの特徴としては、夫がスポーツを実施している傾向にあったということ。そもそも夫婦の出会いがスポーツの場だった人もいる。家族ぐるみで参加できるようなスポーツに親しむ機会の創出が重要である。
- 委員 行政からの資金的援助を受けて高齢者が民間スポーツクラブへ参加する事例がある。援助を受けている間は参加者が多くいて、楽しんでいるように見えるが、援助が止まると辞めてしまう人がほとんどである。健康維持に対する支払い意識の度合いが人によって異なる。この意識の低さはなかなか高くない。
- 委員 公金を投じてスポーツ推進するにあたり、すでに運動が習慣化されている人にまで範囲を広げることは適切ではない。公がどこまでの役割を担うのかについては議論が必要である。行政はきっかけづくりに力を入れるべきであって、その段階において民間活用ができるような場合には、行政から支援するという考えられる。
- 委員 きっかけづくりと行動変容の考え方が重要で、通常、人が行動変容に至るまで3か月間くらいかかると思うので、単発な教室やイベントから、少し期間を長くしてきっかけづくりから定着までの行動変容を支援していけると良いのではないかと。

■みるスポーツ

- 委員 成蹊大学はインフラも充実していて、サッカーは一部リーグに所属している。プロにはなれないが、トップレベルの実力を持っているので、子どもたちに観戦する機会をつくってもらえれば良いのではないかと。また、市で輩出している女子サッカーの岩淵選手や東京武蔵野ユナイテッドフットボールクラブ所属の選手が来て市内の小中学校に凱旋している取組も良いと思う。
- 副委員長 クオリティとしては高いものを観戦できる場なのに一般的に地域の人あまり観戦されていない現状にある。というのも、観戦環境がそこまで整っていない。大学側としては観戦していただきたいが、観戦環境が十分でないと考えてしまう。地域住民が足を運べる施設の在り方が重要と考える。また、試合がない日でも人が集まる環境づくりが実現できると良いだろう。地域の一体感を醸成することにもつながる。
- 委員 競技スポーツを営んでいる立場としては観戦者が増えてほしいという気持ちがある。JFLにおいて観客数の増加を目指しているが、実際の観客数は少なく課題となっている。ラグビーはタグラグビー教室を実施し、選手と子どもとの触れ合う機会を創っており、親近感が湧いている傾向にある。選手が積極的に関わるとすることも重要と考える。
- 委員長 スポーツを観るという視点においては、競技スポーツの観戦だけではなく、地域スポーツの応援という方法もある。
- 委員 武蔵野スポーツサポーターズクラブのようなものをつくり、種目の垣根を越えて、種目にかかわらず応援する、みんなで応援できるような意識や環境づくりが重要である。
- 委員 ラグビーワールドカップ 2019 の時やゴルフの松山選手が優勝した時など、子どもは影響を受けて刺激になる。観ることによってスポーツ実施者が増えている。若い人が興味

を持つような競技レベルの高さが重要。箱根駅伝の時に偶然チラシを受け取ったが、自分の地域の大学が出ていると応援してしまう。地域に強い競技種目のチーム等があれば発信すると良いだろう。スポーツ観戦者数を増やす上で、全体のレベルを向上させていくことが重要である。

- 副委員長
事務局 オリパラのホストタウン関連の話題はどの位置づけになるのか。
ホストタウンはレガシーとして捉えているが、今年度いっぱいの取組のため同規模で事業を継続することは考えていない。
- 副委員長 これまでの交流の中で関わった国々の観戦も良いと思う。また産官学の連携が重要と思った。するスポーツは民間との連携となっているが、全ての項目において連携・共同が必要となる。そこを深めていくと実効性の高い計画になると考える。スポーツ資源は豊富にあるので、最大限活用していくと良いだろう。
- 委員長 本日はする、みるの視点での議論であった。時間がきたため事務局に事務連絡をお願いする。

その他

事務局より、次回の会議日程について説明を行った。

- ・次回は6月30日（水）18:00 から開催を予定しているが、16:30 から総合体育館と温水プールの施設見学も予定している。

以上